

ところ会 2 月行事案内

江戸五色(ごしき)不動産を一日で巡る<訂正版>

■日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金）

8:45 池袋行きホーム前方に集合して下さい。

■見学場所及び時間：コース全長約 約 6km

所沢駅(8:50)快速中華街行…池袋駅乗換…雑司ヶ谷駅⇒目白不動
⇒雑司ヶ谷…北参道⇒目黄不動⇒明治神宮前…渋谷…三軒茶屋駅
⇒昼食⇒目青不動⇒三軒茶屋駅…二子玉川…大岡山…不動前
⇒目黒不動⇒不動前⇒本駒込(南北線)⇒目赤不動
⇒本駒込…飯田橋……所沢駅(予定時間 17 頃)

■交通費 約 1,600 円……西武東京メトロパス使用

今回は地下鉄を多く使用するため、西武東京メトロパスを使います。

当日に乗車する駅で購入下さい。(前日購入はできません)

西武線の往復運賃が割引、東京メトロ線全線 1 日乗り降り自由です

・購入方法 西武線各駅の自動販売機又は窓口で購入します。

必ず、紙の西武東京メトロパスを購入下さい。

① 券売機の場合 おトクなきっぷと表示のある券売機でおトクなきっぷボタンを押します。次にきっぷと書いてあるボタンを押します。



次の画面で「東京方面」一次の画面で「メトロパス」のボタン表示されます。所沢駅からだと 980 円です

② 窓口での購入

窓口でも購入できます。その際もパスモにチャージせず紙の切符を購入して下さい。

五色不動は「江戸五色不動」とも呼ばれており、3代将軍徳川家光が天海僧正の建言により江戸府内から5か所の不動尊を選び、天下太平を祈願したことに由来するなどの伝説が存在します。史跡案内など多くの文献ではこのような説話に倣った由来が記述されていますが、資料によっては伝説の内容にばらつきも見られます。

一方で五色不動を歴史的に研究したいくつかの報告によると、実際に「五色不動」という名称が登場するのは明治末または大正始めであり、江戸時代の史実とは考えにくいとしています、伝説自体は江戸時代から伝わる噂話に原型が見られるといいます。

また名称を別とすれば個々の寺院や不動像自体は江戸時代（以前）からの歴史を持つとされます。特に**目黒不動・目白不動・目赤不動**については江戸時代の資料からもその名称が確認でき、江戸の名所として「**三不動**」の名で知られます。

<目白不動 金乗院> (副都心線 雑司ヶ谷)

金乗院は天正年間(1573~92)の創建と考えられます。当初は中野宝仙寺の末寺でしたがその後護国寺の末寺となっています。建物は戦災で焼失し、現在の本堂は昭和46年に再建され、平成15年に全面改修されました。



文京区関口の新長谷寺の本尊の不動明王像を家光が五色不動のひとつとして「目白不動」の名を贈った。(これが地名の目白の起源になっています。)
新長谷寺は戦災により昭和20年に廃寺となって本尊の不動明王は金乗院に移されました。

左の御臂(おんて)を切り落とし、そこから火焰を表している断臂(だんび)不動明王が不動堂に安置されています。



境内には寛文6年(1666)造立の俱利伽羅不動庚申塔がある。剣に不動明王の化身である俱利伽羅大龍が巻き付いている。また、寛政12年(1800)造立の鏢塚(刀剣の供養塔)などがある。

墓地には、丸橋忠弥、青柳文蔵の墓がある。

丸橋忠弥の墓：槍の達人でお茶の水に道場を開いていた。

慶安4(1651)年由井正雪らとともに江戸幕府覆滅の陰謀をはかり、密告により逮捕され、品川で磔刑に処された。この事件は浄瑠璃、歌舞伎狂言などに劇化され、特に『慶安太平記』は忠弥をはなばなしく描いている。

青柳文蔵の墓：日本における図書館の始祖

仙台藩出身の江戸時代後期の商人(1761~1839)。医学を勉強する目的で18歳で江戸に出たが、目指す道が変わり、弁護士業や貿易業で財を成した。若い時に書物を手にすることが出来なかった苦い経験から仙台藩に書籍2,885部、9,937冊、また100両を贈り、藩はこれを**青柳文庫**として一般に供することとなり、これが日本の最初の公開図書館となる。

<目黄不動 龍源寺> (副都心線 北参道)

江戸時代には目がつく不動が3つしかなく、それをセットとして語る例はなかった。明治以降、目黄、目青が登場し、後付けで五色不動伝説が作られたものと考えられる。目黄不動は永

久寺(日比谷線 三ノ輪)、**最勝寺**(総武線 平井)が有名であるが、いずれも浅草勝蔵院にあった「明暦不動」(後になまってメキ不動と呼ばれたこともある)に近く、その記憶から目黄不動とされたのではないかと推測される。いずれにせよ、この目黄不動についてはこの他にもあり、そのうちから一日で廻り易い**龍巖寺**を訪れる。

龍源寺の目黄不動は秘仏となっており、お堂も閉まっているがその他に、安芸広島藩浅野家の墓所があり、浅野長勲(ながこと:天保13年~昭和12年)など円墳型の4基の墓、蛇に巻かれた弁財天の石像、場所は不明だが芭蕉句碑、八幡太郎義家の腰掛石がある。龍源寺は檀信徒以外立入禁止とな



っている、許可を得ていますがお静かに見学願います。

この後、原宿の神宮前駅まで歩きますので、水分補給等をお願いします。

<昼食> 三軒茶屋 上海風情 Tel 050-5595-1980

昼食はバイキングスタイルの中華料理屋さんです。

料金は980円、ドリンクバー200円で、ドリンクバーを含むと税込み1,274円となります。アルコール飲料も各種あり。

12:15～約1時間の予定ですが、状況により次の目青不動を先に回るかも

<目青不動 最勝寺(教学院)> (田園都市線 三軒茶屋)

最勝寺は天台宗の寺院で通称**教学院**という。

教学院は、慶長9年(1604)江戸城内紅葉山に創建、後赤坂三分坂、継いで青山南町へ移転、現在地には明治41年に移転したといひます。

(寺の縁起によると創建は鎌倉時代で、慶長9年に青山南町に移ったとあります。)

貞享4年(1687)には相州小田原城主大久保加賀守の菩提寺となり、明治維新後、廃寺となった観行寺の本尊であった目青不動を移したことから、**青山のお閻魔さま**とも称されたといひます。閻王殿に祀っている目青不動は慈覚大師の作で、**秘仏**であり公開されていない。**前立ち**の青銅製不動明王像は寛永19年(1642年)の作です。



<目黒不動 瀧泉寺> (東急目黒線 不動前)

目黒不動尊は、天台座主第三祖**慈覚大師圓仁**が開かれた**関東最古の不動霊場**です。

十五歳の慈覚大師は、当地に立寄られた時、霊夢を見ました。夢覚めた後その尊容を自ら彫刻されたのが、御本尊目黒不動明王です。堂宇建立を決意された大師が、法具の獨鈷を投じると、そこに泉が湧出。「獨鈷の瀧」と名づけられたこの霊泉に因んで、当山を「瀧泉寺」と号



されました。

将軍**家光**が鷹狩りで**目黒**の辺りに来ていた時、可愛がっていた鷹が行方不明になるということがあり、そこで不動の僧に祈らせたところ無事に戻ってきたという。喜んだ家光は不動を深く尊信し、焼失していた堂塔を再建し、諸堂末寺等併せて五十三棟に及ぶ大伽藍を造立します。歴代の将軍が折々に参詣する宏壮な堂塔は『目黒御殿』と称され、庶民も列を成して詣でる**江戸随一の名所**となりました。江戸の三富と呼ばれた富くじが行われたことも、目黒不動繁栄の一因となりました。

甘藷先生：本堂裏の墓地に、サツマイモの先生でられる**青木昆陽**の墓がある。昆陽が生前邸内に立てておいたものといわれ、碑の正面に「甘藷先生墓」と楷書で書かれている。寺の外なので見学割愛

比翼塚：比翼塚は、愛し合って死んだ男女や心中した男女、仲のよかった夫婦と一緒に葬った塚で、仁王門前には芝居でおなじみの**白井権八**・**小紫**の比翼塚がある。

鳥取藩士であった**白井権八**は、18歳の時父の同僚である本庄助太夫を斬殺し、江戸へ逃亡した。新吉原の三浦屋の遊女・**小紫**と昵懇となるが、やがて困窮し辻斬りを行い、130人もの人を殺し、金品を奪ったとされる。

権八は、目黒不動付近にあった**東昌寺**に匿われ、尺八を修め虚無僧になり、郷里・鳥取を訪れたが、すでに父母が死去していたことから、自首したとされ、品川・鈴ヶ森刑場で刑死した。享年**25**。**小紫**は刑死の報を受け、東昌寺の墓前で自害したとされ同寺に「比翼塚」がつけられたが、同寺が廃寺となったため移転し、目黒不動に現存している。

歌舞伎では、幡随院長兵衛に「お若えの、お待ちなせえやし」と問われ、「待てとお止めなされしは、拙者がことでござるかな」と応える台詞が有名です。

前不動堂：独鈷の滝の左にある宝形造朱塗りの小堂 東京都の有形文化財
勢至堂：前不動堂のさらに左ある宝形造の小堂。江戸時代中期の建築で、目黒区の有形文化財。付近には甘藷先生（青木昆陽）碑、北一輝碑、本居長世碑などがある。目黒区指定文化財

野村宗十郎銅像:仁王門を入れて左手にある。築地活版製造所の社長で、日本に明朝体活字を普及させた人物である。

大日如来像:大本堂の背後にある露座の銅製仏像。天和3年(1683年)の作。目黒区指定文化財

<目赤不動 南谷寺> (南北線 本駒込)

天台宗 大聖山 南谷寺

元和年間(1615~24)万行和尚が伊勢国赤目山で、不動明王像を授けられた。その後、尊像を護持して諸国をめぐり、駒込村の動坂(どうざか)に庵を開き**赤目不動**と号した。

寛永年間(1624~44)三代将軍家光が鷹狩の途中に動坂の赤目不動に寄り、目黒・目白不動に対し**目赤と呼ぶべし**と命じ、現在地を与えた。



<帰路>

・本駒込(南北線)―飯田橋(有楽町線)―小竹向原(Fライナー)―所沢